



す。現政権は、二年以内の憲法改正を掲げるとともに、集团的自衛権の行使容認、武器輸出政策の緩和、日米新ガイドライン改定など、これまでの安全保障政策の大幅な転換を進めています。

しかし、たとえば中国は政治体制こそ日本と大きく異なるものの、重要な経済的パートナーであり、いたずらに緊張関係を煽るべきではありません。

さらに、靖国参拝については、東アジアからの懸念はもちろん、アメリカ国務省も「失望した」とコメントするなど、外交関係を悪化させています。

こうした外交・安全保障政策は、国際連合を中心とした戦争違法化の流れに逆行するものであり、日本に対する国際社会からの信頼を失うきっかけになりかねません。

長期的かつ、現実的な日本の安全保障の確保のためには、緊

張緩和や信頼醸成措置の制度化への粘り強い努力が不可欠です。

たとえば、「唯一の被爆国」として核軍縮／廃絶へ向けた世界的な動きのイニシアティブをとることや、環境問題や開発援助、災害支援といった非軍事的な国際協力への推進が考えられます。歴史認識については、**当事国と相互の認識を共有することが必要です。**

先の大戦による、多大な犠牲と侵略の反省を経て、平和主義／自由民主主義を確立した日本には、世界、特に東アジアの軍縮・民主化の流れをリードしていく、強い責任とポテンシャルがあります。私たちは、対話と協調に基づく平和的かつ、現実的な外交・安全保障政策を求めます。私たちは、自由と民主主義に基づく政治を求めます。SEALDs(シールズ)は、自由で民主的な日本を守るための、学生による緊急アクション

です。担い手は10代から20代前半の若い世代です。私たちは**思考し、そして行動します。**

私たちは、戦後70年であつりあげられてきた、この国の自由と民主主義の伝統を尊重します。そして、その基盤である、日本国憲法のもと、価値を守りたいと考えています。この国の平和憲法の理念は、いまだ達成されていない、未完のプロジェクトです。現在、危機に瀕している、日本国憲法を守るために、私たち立憲主義・生活保障・安全保障の三分野で、明確なヴィジョンを表明します。

日本の政治状況は、悪化し続けています。二〇一四年には、特定秘密保護法や集团的自衛権の行使容認などが強行され、憲法の理念が空洞化しつつあります。貧困や少子高齢化の問題も深刻で、新たな生活保障の枠組みが求められています。緊張を強める、東アジアの安定化も大

きな課題です。今年7月には、集团的自衛権等の安保法整備がされ、来年の参議院選挙以降、自民党は改憲を現実のものとしようとしています。

私たちは、この一年がこの国の行方を左右する非常に重要な期間であると認識しています。

いまこそ、若い世代こそが政治の問題を真剣に考え、現実的なヴィジョンを打ち出さなければなりません。私たちは、日本の自由民主主義の伝統を守るために、従来の政治的枠組みを越えたりバラバラ勢力の結集を求めます。そして何より、この社会に生きるすべての人が、この問題提起を真剣に受け止めて、思考し、行動することを願います。私たち一人ひとりの行動こそが、日本の自由と民主主義を守る盾となるはずですよ。

**私たちは、持続可能で健全な成長と公正な分配によって、人々の**

**生活の保障を実現する政治を求めます。**

私たちは、持続可能で健全な成長と公正な分配によって、人々の生活を保障する政治を求めます。派遣村、就職難、ワーキングプアなど、現在の日本はかつてない貧困のなかにあります。グローバル化や脱工業化社会のなかで、他先進国に比して国民の福祉の多くを企業・家族に委ねていた日本の生活保障システムは、抜本的な改革が迫られています。

現政権は、格差拡大と雇用の不安定化を促進し、中間層・貧困層を切り捨てた、いびつな成長戦略を実行しています。アベノミクスの結果、一部の富裕層の所得は増えたものの、中間層の所得は減りました。社会保障の分野では、生活保護などセーフティ・ネットの切り下げ、介護保険サービスの削減などが行われています。雇用についても

非正規雇用の拡大に加え、今後は派遣労働を永続化させかねない、労働者派遣法の改正も目指しています。加えて、二〇一七年の四月には消費税が一〇%に引き上げられる予定です。

社会保障を中心とした、再分配システムが再建されないまま消費税増税が行われれば、格差拡大はますます進行します。

いま求められているのは、国家による、社会保障の充実と安定雇用の回復を通じた、人々の生活の保障です。過酷な業務や残業代のない長時間労働によって、働く人々の生活を脅かすブラック企業の問題も、近年問題とされています。政府には、労働者の生活を保障するために、こうした企業を規制していく責任があり、社会保障や雇用保障の実現は国民の生活を守るだけでなく、健全な経済成長をもたらし、基盤ともなるはずです。

私たちが望むのは、格差の拡

大と弱者の切り捨てに支えられた、ブラックな資本主義ではなく、豊かな国民生活の実現を通じた、健全で公正かつ、持続可能な成長に基づく日本社会です。私たちは、多くの国民の生活を破壊しかねない、現政権の経済政策に反対します。

そして、公正な分配と健全な成長戦略を尊重する、政治を支持します。』

**日本の政治や歴史を学ぶための書籍十五冊を発表し、協力書店を呼びかけている。名付けて「選書プロジェクト。」**

メンバーは「テモの出発点は学ぶこと。先人の知の蓄積があって、私たちはテモで思いを発信してきた」と本への思いを語る。「希望の国のエクスダス」「君たちはどう生きるか」「それでも、日本人は『戦争』を選んだ」と。シールズが選んだ十五冊には、さまざまな分野の書名が並び、「自由や民主主義を

議論する時、土台として知識を共有できる本をみんなで見たい」と説明する。「選書プロジェクト」は七月下旬に準備がスタート。「本好きのメンバーが一人三冊程度、影響を受けた本の推薦をし、その中から集团的自衛権や特定秘密保護法に関連する本など、基本図書十五冊を決めた。」「違憲の法案を強行して通す政治が、いかにおかしいか。私たちの自由と権利を守るため、本で学び、話し合うことはますます大切になる」と。来夏には参院選も控える。メンバーの大学四年生も「政治を国会議員任せにしてはだめだ」、とあらためて知った。本を通じ、政治を考える人を増やしていきたい。

「特に同世代が本を手にとってくればうれしい」と。若者の「選挙への熱い思い」が夏の日差しと重なった。選書一五冊しかと受けとめた。

(しん)

## あの日から6年 がたち…

私の人生が、変わりました。  
人生、山あり谷あり、その  
ものです。

簡単な経歴・自己紹介をさ  
せて頂きます。

昭和三十九年十一月に、大  
阪の福島区に生まれ、四歳の  
ころ、東淀川区(今の淀川区)  
に引っ越し、高校を卒業(途  
中家出をして、箱根の某ホテ  
ルに)するまで住んでいまし  
た。卒業式の翌日には、小田  
原のイタリアンレストランで  
働き始めました。箱根に居た  
時に、知り合い、家出を中断  
させ、私を救ってくれた恩人  
たちの所です。憧れの白く高  
いコック帽をかぶり、料理長  
と呼ばれるまで、成長させて  
頂きました。

それでも、いろんな方と知  
り合い、自分で店を持つ夢が  
広がり、資金を貯めるため運  
送屋業界に入ったのが、最大  
の人生の始まりかも?

大型・けん引とか、運送に  
携わる免許をとり、運送会社  
に勤め、某メテ工場長に認  
められ、産廃専属運搬をしま  
した。それから、少し調子に  
乗り、トラックを購入、某パ  
イプ工場に持ち込みで契約、  
工場内での積み込み中転落、  
尾骶骨圧迫で長期入院、後遺  
症は残りましたが、復帰して、  
小田原く神戸の定期便の契約  
をしましたが、神戸淡路の震  
災で、仕事ができず、悩んで  
いる時に、中古販売店の車運  
搬(キャリアカー)の手伝い  
を頼まれて運搬、オークシヨ  
ン会場で、トヨタ業販担当者  
と出会い、会社を設立し本格  
的に、車両運搬、倉庫業とを  
始めました。業界の波は色々

とありましたが、妻や仲間の  
力も借り、順調にすすんでい  
ましたが、平成二十一年七月  
末、阪神高速神戸線で自損事  
故、頸髓損傷となり、会社を  
解散し、今の私が居ます。(長  
くなりました) 私自身、車イ  
又生活をするに不安や苛  
立ちが、あったことは、隠す  
こともないです。毎日、酒に  
逃げ暴力的な行為もしてきま  
した。妻も介助中に、膝の靭  
帯を断裂し、障がい認定を持  
たしてしまいました。自己反  
省をしつつも、お酒は止めら  
れません。

ただ、毎日飲んでいたので、  
仕事(パート事務)の休みの  
前日にと、決めていきます。日  
常生活では、やはり目線違い  
で、不安や疑問もありました  
が、自分なりに、納得するよ  
うに努力、また、店舗などに、  
質問や問い合わせをしまし  
た。でも、一向に解決になら

ず、独り言で文句を言い、わ  
かってもらえない方に聞いても  
らっていません。

せき損センターの入院仲間  
の紹介で、筑後支部の廣松様  
を紹介していただき、北九州  
支部の白川様とのつながりを  
つくって頂きました。

福腎連の存在は、知らなか  
ったのですが、紹介して頂き  
全腎連の皆さんの活動を見て、  
一緒に活動し、達の事を理解  
し、モラルとマナーを学んで  
いきたいと思えます。

白川様には、これから学ば  
せていただくことが、沢山あ  
ると思うので、ゆっくりとお  
願います。廣松様、何故か?  
同年代ということもあり、真  
面目な好青年を競馬場の馬主  
席に招待してくれたりと楽し  
ませていただいております。  
福腎連の皆様、これからも  
どっぞ、宜しく願います。

(北九州支部 宮岡 健)

## 《 今月の時事 》

戦後70年を読み解く。その歴史を知るためには、「沖縄の米軍基地」について理解しなければならない。課題の「軸足」は、本土の私たちはいかに沖縄と向き合うべきなのか。どのように「向き合ってきたのか」、その問いが投げかけられている。『琉球処分』という名の琉球合併後、日清間で琉球諸島を分割しようとした分島条約問題、同化・皇民化政策、「国体護持」のための「捨て石」とした沖縄戦、「本土」の主権回復と引き換えの米国統治権下(事実上の米軍政下)に沖縄を投げ出したサンフランシスコ講和条約、県民を欺く密約を米国と結んでの沖縄返還、日米安保体制下での米軍基地の集中存置、基地負担に知らんぷりをしたままの観光利用・文化化の消費(癒しの島・沖縄)、そして今、「オール沖縄」の民意を無視して強行される辺野古新基地建設。～沖縄差別・植民地主義の継続、などとも言われる。日米安保体制は、沖縄を犠牲としてのみ成り立つ「犠牲のシステム」だった。』沖縄の米軍基地―県外移設を考える―高橋哲哉・集英社新書。(「犠牲のシステム福島・沖縄」前著もある)。「知念ウシ『シランフナー(知らんぷり)の暴力・知念ウシ政治発言集』未来社2013年をはじめに、沖縄の米軍基地に関する著書は、様々な立場からの提言著書がある。戦後70年、沖縄の犠牲の構造は変わっていないこと。だから、「翁長雄志知事が21・22日、スイス・ジュネーブの国連人権理事会などで演説、日本の都道府県知事として初登壇し、米軍基地の存在によって県民の人権が侵害されている状況と、民意に背を向けた日米の圧政を告発、知事選挙を経た正当な民意を基盤とする知事が、戦後70年たっても沖縄に横たわる不条理を改めるよう、国際社会に支持を訴えた。不退職の決意で臨む行動の意義は大きく、知事を送り出す県民も沖縄の未来を拓(ひら)く礎と意識したい。」と。沖縄の基地問題の歴史を「時間」をかけて、読み取ることをこれからの課題とする。何もできないが、ささやかに流れに抗うことしかできないが、「ささやかな抗い」を「封じない立ち位置」を持続したいと思う。(しん)

会員・賛助会員の皆様にお知らせです。『わだち』の原稿を募集しています。  
意見・提言・新年・雑感など何でも可能。原稿を書いてくださる方は、事務所に  
メール添付・郵送・FAX等で送ってください。どうぞよろしくお願いいたします。

- 編集 福岡県脊髄損傷者連合会 会長 藤田 幸廣  
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7  
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内6階  
TEL&FAX: 092-592-4528  
E-Mail: fukusekiren-kasuga@cello.ocn.ne.jp
- 発行 九州障害者定期刊行物協会 頒価100円(会費に  
含まれる) 〒812-0054 福岡市東区馬出2-2-18

編集後記  
朝晩が涼しくなり、秋の  
気配を感じ始めました。  
日中は、暖かいので服装  
で調整します。(坂本)



この広報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。